

平成 20 年度 第 2 回「まちかどミーティング」概要

団 体 名	ボランティア「カンタ・サンピノ」
開 催 日 時	平成 20 年 7 月 16 日（水） 午前 11 時 00 分 ～ 12 時 00 分
開 催 場 所	能代ふれあいプラザ「サンピノ」
出 席 者	「カンタ・サンピノ」の皆さん 24 人（能代市：市長 他 4 人）
案 件	今後の能代市について 他
会議の概要	<p>（ …「カンタ・サンピノ」の皆さん …市長 …市各職員）</p> <p>・カンタ・サンピノ…包括支援センターのゆうあい健康教室を受講し、コース指導を受けた人たちが結成した合唱愛好家グループ。月 1 回の活動、現在会員は 30 人。サンピノ主催の各種行事に出演するほか、介護予防教室のボランティアもしている。</p> <p>1 今後の能代市について</p> <p>新しい「総合計画」を策定し、市がめざす将来像を“わ のまち 能代”とした。これは「市民の和」、「環境で活力を生み出す環」、「未来へつながる輪」この 3 つの“わ”をイメージしたもの。その基本は“感謝と思いやり”の心を市民全てが持つことで、皆が協力して人口と所得の増をめざす街にしたい、ということ。そのことによって、市に活力を取り戻すことができると考えている。以下、現在の取り組みについて。</p> <p>リサイクルポートとしての能代港の活用</p> <p>一昨年 12 月能代港がリサイクルポートの指定を受けた。今は環境の時代であり、限られた資源の有効活用(リサイクル)が求められる。秋田県でも「県北エコタウン構想」として、同和鉱業を中心としたリサイクル業者と連携し、県北一帯をリサイクルを中心とした環境に優しい地域としたいという構想を立てている。</p> <p>その中で、能代市が果たす役割の柱が、リサイクルポートとしての能代港の活用である。リサイクルのためには大量の原料物質輸送が必要なため、能代港を陸揚げ拠点として活用したい。</p> <p>現在、大館にある同和鉱業の工場では、都会の工業地帯の汚染土壌の浄化を行っているほか、携帯電話・廃家電などから 17 種類ほどのレアメタルを回収精製する世界屈指の技術をもっている。その輸送のためにも港の利用拡大をしたいと思っている。またレアメタルを効率よく回収精製するための中間処理施設や新業種が生まれる可能性もある。運送業種のだけでない新たな産業・職場の創出も見込んでいる。この能代港を中心に市に元気を取り戻したい。</p> <p>「バイオマスタウン構想」</p> <p>市では「バイオマスタウン構想」を持っている。環境に負荷をかけない、植物等を使った発電や堆肥を作ったり等を行うことで、新たな事業創出を</p>

めざしている。

この地域の地場産業は農林業であり、それが元気にならないければ、所得や人口の増は見込めない。農産物の従来の取引先は関東圏だったが、今、市では名古屋市場と取引を始め、販路の拡大を進めている。

農業の冬場の対策として、バイオマスを活用した冬場のエネルギー確保の取り組みをしたい。家畜の糞尿発酵等を利用したバイオマス発電など、従来は廃棄していたものを活用し、きれいで安価なエネルギーを生み出すことで施設園芸を進め、農業を活性化できないかと考えている。

2 介護予防教室(ゆうあい教室)について

ゆうあい教室は、老後の健康づくり、介護予防に効果を上げている。医療費や介護費抑制の見地からも、今後も継続実施してほしい。

一層介護予防に力を入れていきたい。高齢化が進行する中で市民の皆さんに元気でいてもらうためには、行政だけでは手の届かない部分を皆さんと一緒に進めていきたいと考えている。

3 新市民歌を歌い広めることについて

新市民歌制定の際は、「カンタ・サンピノ」のレパートリーに加え、サンピノ祭等の機会を使って、一般に広めていきたい。

作曲家の青島広志氏に直接会って、市民歌の作曲を依頼した。“歌いやすく元気の出る”ような歌にしてほしい旨伝え、快諾してもらった。3月21日の合併記念日に発表したいと考えている。方法等は今後検討するが、皆さんはじめ、市内の合唱グループに歌ってもらう機会を作りたい。そして、皆さんのレパートリーに加えてもらい、普及促進してもらえようをお願いしたい。

4 市庁舎玄関の段差解消について

市第1庁舎正面玄関と第4庁舎右側、市民保険課入り口の段差を解消してほしい。

両方とも入り口には、現在も段差のない部分も併設している。第4庁舎側は、駐車スペースが狭くなるため、全てを段差なしの入り口にするのは難しい。段差に対する注意喚起とわかりやすい表示に配慮する。第1庁舎側は改善したい。(第1庁舎正面玄関は、この後改修しました。)

5 街路樹のアメシロ駆除について

成長の早いプラタナスにはアメシロが発生しやすい。今後も定期的な駆除をお願いしたい。

市でも時期には点検を強化し、卵の段階で駆除するように努めているが、管理する街路樹は約3,200本もあり目が行き届かないところもあるというのが実情。駆除すべき木についてはすぐ対応するので、ぜひ情報をいただきたい。

6 泥上げ処理について

側溝清掃の際の上げた泥の処理はどうすればよいのか。

能代地区については、町内会等で要望があれば、袋の支給から泥の回収まで市でやっているの連絡をいただきたい。

7 米代川堤防の石垣の整備について

向能代に向かい、能代橋のすぐ左側の米代川堤防の法面の石垣が、隙間が大きい。川の増水、あるいは地震の際など非常に心配。

管理する国土交通省の話では、現状でも大丈夫とのこと。昨年の水害時でも、以前からの現状を維持しており、変化等は見られない。引き続きパトロールは続けるが、緊急を要するような状態ではないので理解いただきたい。

8 介護保険制度について

元気で介護の必要もなく、健康に生活している老人もいる。介護保険の利用がない場合にその恩典はないのか。

「包括支援センター」の運営費用は、介護保険料からも出ている。介護予防に力を注いでおり、元気なお年寄りを増やすことで、個人への還元ではなく、結果的に皆様に還元することになるということを理解いただきたい。

9 バス運行について

はまなす号を向能代地区にも運行できないか。

はまなす号はバス未運行地区の交通弱者のために始めたものであり、現在路線バスの運行地区は走っていない。ただ、はまなす号については見直しの時期でもあり、提案の逆ルート等も含めて検討している。

路線バスについて、高齢者を対象として格安均一な料金での利用ができないか。(二ツ井地区シルバーパス券制度のように)

高齢者の運賃割引きについては、こちらでも議論はしているが、合併前からの二ツ井との地域事情や交通事情が異なる状況もあり、早急な統一は難しい。

その他、少子化、除雪に関する事など